

親子関係がよいと小・中学生は親の期待に こたえようと思うのか？

遠山孝司¹⁾

1. 問題と目的

親が子どもに対して持つ「このような人間に育てたい」、「このような人間に育てなければならない」といった期待や教育目標は子どもに影響を与える。柏木(1990)は、「子どもの発達、生をうけ成長する環境によって大きく規定される。幼少期の環境のありようは親によって作られているといっても過言ではない。(中略)こうした親の環境づくりは、その時々思いつきでされるバラバラなものではなく、ある一貫性がある。それは子どもへの期待、願いにもとづいているからである。このように親の子どもへの期待は子どもの発達環境を決定する基盤であるといえよう。」(p.9)と述べ、親の期待が子どもに影響を与えることを示している。また、宮島(1994)もBourdieu, P.の社会的な再生産(reproduction)の理論を紹介する中で、子どもは親の行為を模倣するだけでなく親と異なることをする(例:親と異なる職業につく)、つまり単純反復するだけでなく、変換することもあるが、この変換にしても自由意志的・偶然的なものではなく「深く条件づけられた行為であり、家庭やその他の環境に媒介された再生産の行為と見ることが出来る。」(p.12)とし、子どもが進路選択等に関して親から大いに影響を受けると主張した。

子どもが親から何らかの影響を受けていることは実証的にも示されている。Steinberg, Lamborn, Dornbusch, & Darling (1992)は、親の養育態度や働きかけは14~18歳の子どもの学業達成と学校活動の従事につながることを示している。またMize & Pettit (1997)は、母親の社会的コーチングが子どもの社会的コンピテンスに与える影響を調査し、3~6歳児の母親の子どもに対する態度や、子どもが遭遇するような問題場面において示す情報の解釈方法や奨励する方略は、子どもの社会的スキルや攻撃性などにつながることを示している。

このように親の期待や教育目標、そしてそれに基づく働きかけは、子ども自身の目標に影響を与えるようである。しかし、子どもが親の期待や教育目標に影響を受ける過程を以下のように考えることで、親の期待の全てが子どもによってこたえられる、もしくはこたえようと思われるわけではないことがわかる。親の期待や教育目標は、子どもに対する働きかけを通じて子どもに“推測”される。親の期待や教育目標を推測した後、子どもはそれを自らの目標とするかどうかの判断を行う。親の働きかけの内容が「~にならなければならない」、「~しなければならない」、「~になってはならない」、「~してはならない」などといった規範的なものであったとしても、子どもの目標として受け入れられるかどうかは子ども自身の判断にゆだねられている。このように考えると教育目標は子どもにとってはあくまで“期待”に過ぎないといえる。では、どのような場合に子どもは親の期待にこたえようと思うのであろうか。

Steinberg et al. (1992)は、親の態度が適切な(権威的: authoritative)場合、親の養育実践は14~18歳の子どもの学業的コンピテンスを強く予測することを示した。それに対して、Mize & Pettit (1997)は、母子関係を媒介要因として扱い、母子関係に温かさがあまりみられない場合、母親が3~6歳児の子どもに対して示す態度や、子どもが遭遇するような問題場面において示す情報の解釈方法や奨励する方略は、子どもの社会的スキルと攻撃性の強い予測因になることを示している。これらの知見は子どもが親の期待や教育目標に影響を受ける際に、親と子どもの関係が教育効果に影響することを示唆するものである。しかし、2つの研究結果は一見矛盾しているように見える。Steinberg et al. (1992)の結果は親子関係が“よい”場合に、Mize & Pettit (1997)の結果は母子関係が“よくない”場合に、それぞれ子どもによる親の教育目標のうけいれが促進されることを示唆しているのである。そこで本研究では、子どもが認知している親子関係が子どもの「親の期待にこたえようと思う」という意識に与える影響を検討する。

1) 名古屋大学大学院教育学研究科博士課程(後期課程)

親子関係がよいと小・中学生は親の期待にこたえようと思うのか？

一般に親子関係は「暖かさ・支持」－「拒否・敵意」の軸と「統制」－「許容」の軸によって示される。しかし親の期待に子どもが受ける影響を考える際、許容的な親に比べて、統制的な親は自らの期待に子どもがこたえるように働きかけるであろうことが予想される。そこで本研究では親子関係を子ども自身が認知している「暖かさ・支持」－「拒否・敵意」の軸からとらえる。

子どもが認知している親子関係についての調査と子どもが認知している親からの期待と期待に対する子どもの態度についての調査を同時に行った場合、因果関係を明確に示すことができない。つまり、親子関係と親の期待に対する子どもの態度の調査を同時に行った場合には、親子関係がよいから親の期待にこたえようと思うのか、親の期待にこたえようと思うから親子関係がよいのかを明らかにできない。そこで本研究では親子関係についての調査を行った後に数か月程度の時間を空け、親からの期待に対する子どもの態度についての調査を行う。

また、親の期待には社会的に望ましい内容が多く含まれることが推測される。調査者によって設定された項目を用いて、それぞれの内容についてどの程度期待されているかを子どもにたずねると、普段意識していない内容についても「そのように期待されている」とこたえる可能性が否定できない。そこで本研究では、実際に子どもが日常生活の中で意識している親の期待を記述させ、その期待に対して子どもがこたえようと思うかどうかをたずねることで子どもの「親の期待にこたえようと思う」という意識を測る。

本研究の目的は子どもが認知している父子関係、母子関係と、日常生活の中で意識している父親、母親からの期待に対してこたえようと思うかどうかの関連を検討することである。そのために小学生、中学生を被験者として、親子関係についての調査を行った数か月後に、日常生活で意識している父親、母親からの期待とその期待に対してこたえようと思うかどうかの調査を行う。

2. 方法

2-1. 調査対象

愛知県内の公立小学校の6年生94名（男子40名、女子54名）、兵庫県内の公立中学校の3年生118名（男子61名、女子57名）を調査対象とした。

2-2. 調査方法

（調査実施時期）

小学生を対象にした親子関係についての調査は平成9年7月に、日常生活の中で意識している親からの期待にこたえようと思うかどうかの調査は3か月後の平成9年

10月に行った。中学生を対象にした親子関係についての調査は平成9年4月に、日常生活の中で意識している親からの期待にこたえようと思うかどうかの調査は8か月後の平成9年12月に行った。

（調査方法）

2回の調査いずれにおいても、質問紙は、担任教師によって配布された。授業時間の一部を利用して一斉に調査を行った。

2-3. 調査内容

（第1回調査－小学生、中学生が認知している親子関係）

小学生、中学生の認知している父子関係、母子関係をとらえるために、6項目からなる「父子・母子関係インベントリー」を作成した。

インベントリーの内容として「親しさ」、「相互理解」、「信頼」、「尊敬」と「服従」についてたずねる項目を採用した。父子関係、母子関係についてたずねる具体的な項目内容は、①「どのくらい親しくしているか」、②「どのくらい親の気持ちを分かっているか」、③「どのくらい自分の気持ちを分かってくれていると思うか」、④「どのくらい信頼しているか」、⑤「どのくらい尊敬しているか」、⑥「どのくらいいうことをきくか」であった。内容の妥当性は中学校教諭5名、小学校教諭2名によって確認された。

これらの項目について、父母別に6項目、合計12項目に「とても当てはまる（3点）」、「当てはまる（2点）」、「少しは当てはまる（1点）」、「当てはまらない（0点）」の4件法での評定を求めた。

（第2回調査1－小学生、中学生が日常生活で意識している父親、母親の期待）

日常生活で意識している父親、母親の期待をとらえるために、父親、母親それぞれの期待の内容を文章完成法の形式で最多で10個まで記述するよう求めた。被験者には「あなたはお父さん、お母さんからどのようなことを期待されていると思いますか。」という発問に対して、「私は父親から～ことを期待されている」、「私は母親から～ことを期待されている」という文章を可能なだけ完成させることを求めた。

（第2回調査2－父親、母親の期待にこたえようと思うかどうか）

日常生活の中で意識している父親からの期待、母親からの期待に対してこたえようと思うかどうかをとらえるために、記述した期待の内容ごとにこたえようと思うかどうかを評定することを求めた。被験者には「左に書いたお父さん、お母さんの期待にあなたはこたえようと思いますか、思いませんか。どちらかを○でかこってください。」という発問に対して、記入した期待の内容の右

側に「こたえようと思う」、「こたえようと思わない」の2件法で評定することを求めた。

なお、質問紙は「日常生活で意識している父親の期待、母親の期待」についての文章完成課題と、「(記述した)期待に対してこたえようと思うかどうか」という評定課題からなっていた。回答順序について担任教師は父親、母親の期待の内容について全て回答した後に、こたえようと思うかどうかの評定を行うように指示した。

3. 結果

3-1. 分析方法

研究1で用いた父子・母子関係インベントリーをもとにした「父子関係得点」、「母子関係得点」を算出した。また、日常生活で意識している父親、母親の期待に対してこたえようと思うかどうかの評定をもとに「期待肯定得点」、「期待否定得点」、「期待記述数」、「期待割合得点」を父母別に算出した。これらの尺度得点間の相関について父母別に検討した。

Table 1. 小学生の父子関係についての因子分析結果

	因子負荷量	共通性
尊敬している	.81	.65
親しくしている	.78	.60
信頼している	.75	.56
自分の気持ちをわかってくれる	.75	.56
気持ちをわかっている	.61	.37
言うことを聞く	.56	.32

Table 2. 小学生の母子関係についての因子分析結果

	因子負荷量	共通性
尊敬している	.83	.70
自分の気持ちをわかってくれる	.80	.65
信頼している	.77	.59
親しくしている	.74	.55
気持ちをわかっている	.59	.35
言うことを聞く	.50	.25

Table 3. 中学生の父子関係についての因子分析結果

	因子負荷量	共通性
信頼している	.85	.72
尊敬している	.82	.67
自分の気持ちをわかってくれる	.80	.65
親しくしている	.79	.63
気持ちをわかっている	.57	.33
言うことを聞く	.56	.32

Table 4. 中学生の母子関係についての因子分析結果

	因子負荷量	共通性
信頼している	.81	.66
親しくしている	.80	.64
尊敬している	.80	.64
自分の気持ちをわかってくれる	.77	.59
気持ちをわかっている	.72	.51
言うことを聞く	.57	.33

3-2. 各尺度得点の算出

(親子関係得点)

小学生、中学生の父親、母親との関係性の因子構造を明らかにするために主因子法による因子分析を行った。小学生の父子関係、小学生の母子関係、中学生の父子関係、中学生の母子関係について、それぞれの6項目に対する評定の得点を用いた。1因子での説明率がいずれも50%を越えたため、全て1因子と判断した。説明率は小学生の父子関係が50.8%、小学生の母子関係が51.2%、中学生の父子関係が55.1%、中学生の母子関係が56.4%であった。Table 1～4にそれぞれの主因子法による因子分析結果を示す。

Table 1～4に示したように、いずれの尺度においても因子負荷量は全て.40以上であったため、全項目を採用した。全項目の項目得点の平均値を各被験者の父子関係得点、母子関係得点とした。

各尺度の信頼性を検討するために、 α 係数を算出した。小学生の父子関係は.80、小学生の母子関係は.80、中学生の父子関係は.83、中学生の母子関係は.84であった。したがって各尺度の信頼性は高いといえる。

(父親・母親期待肯定得点、父親・母親期待否定得点)

小学生、中学生の「日常生活で意識している父親、母親の期待」についての文章完成課題と、「(記述した)期待に対してこたえようと思うかどうか」という評定課題に対する回答から、こたえようと思っている、思っていない期待内容の数を父母別に集計した。記述された父親、母親の期待の内容に対して“こたえようと思う”という評定数を「父親期待肯定得点」、「母親期待肯定得点」とした。記述された父親、母親の期待の内容に対して“こたえようと思わない”という評定数を「父親期待否定得点」、「母親期待否定得点」とした。

(父親・母親期待記述数、父親・母親期待割合得点)

父親・母親期待肯定得点、父親・母親期待否定得点と同様に、小学生、中学生の「日常生活で意識している父親、母親の期待」についての文章完成課題と、「(記述した)期待に対してこたえようと思うかどうか」という評定課題に対する回答から、父親、母親の期待内容の記述数と、記述した期待内容の中でこたえようと思っている期待内容の占める割合を算出した。父親、母親の期待内容の記述数を「父親期待記述数」、「母親期待記述数」と

Table 5. 小学生の下位尺度得点の平均と標準偏差

	人数	平均	標準偏差	最大値	最小値
父子関係得点	88	2.11	0.50	3.00	0.30
父親期待肯定得点	94	3.44	2.58	10.00	0.00
父親期待否定得点	94	0.84	1.29	5.00	0.00
父親期待記述数	94	4.28	3.27	10.00	0.00
父親期待割合得点	89	0.85	0.22	1.00	0.00
母子関係得点	88	2.18	0.52	3.00	0.50
母親期待肯定得点	94	3.69	2.72	10.00	0.00
母親期待否定得点	94	0.73	1.28	7.00	0.00
母親期待記述数	94	4.43	3.21	10.00	0.00
母親期待割合得点	89	0.87	0.21	1.00	0.00

Table 6. 中学生の下位尺度得点の平均と標準偏差

	人数	平均	標準偏差	最大値	最小値
父子関係得点	110	1.80	0.55	3.00	0.30
父親期待肯定得点	119	1.29	1.41	9.00	0.00
父親期待否定得点	119	0.24	0.79	7.00	0.00
父親期待記述数	119	1.53	1.63	10.00	0.00
父親期待割合得点	90	0.89	0.26	1.00	0.00
母子関係得点	115	1.85	0.56	3.00	0.00
母親期待肯定得点	119	1.24	1.39	10.00	0.00
母親期待否定得点	119	0.24	0.57	3.00	0.00
母親期待記述数	119	1.49	1.50	10.00	0.00
母親期待割合得点	91	0.85	0.30	1.00	0.00

した。こたえようと思っている期待内容の占める割合を「父親期待割合得点」,「母親期待割合得点」とした。

以上の尺度について、被験者ごとに尺度得点を算出し、全体の平均および標準偏差を算出した。その結果をTable 5, 6 に示す。

3-3. 親子関係得点と期待に関する尺度得点の関係

本研究の目的は子どもが認知している父子関係、母子関係と、日常生活の中で意識している父親からの期待、

母親からの期待に対してこたえようと思うかどうかの関連を検討することである。そこで父子関係得点、母子関係得点と、父親期待肯定得点、母親期待肯定得点、父親期待否定得点、母親期待否定得点、父親期待記述数、母親期待記述数、父親期待割合得点母親期待割合得点の間の相関係数をそれぞれ算出した。その結果をTable 7~10に示す。

(親子関係得点と期待に関する尺度得点の相関-小学生)

父子関係得点と父親期待否定得点の間に5%水準で有意な負の相関がみられた。このことから父子関係がよい

Table 7. 小学生の父子関係得点と父親期待に関する尺度得点の相関

	1.	2.	3.	4.
1. 父子関係得点				
2. 父親期待肯定得点	-.08			
3. 父親期待否定得点	-.26*	.35**		
4. 父親期待記述数	-.17	.93**	.67**	
5. 父親期待割合得点	.18	.04	-.73**	-.27*

*p<.05 **p<.01

Table 8. 小学生の母子関係得点と母親期待に関する尺度得点の相関

	1.	2.	3.	4.
1. 母子関係得点				
2. 母親期待肯定得点	-.09			
3. 母親期待否定得点	-.27*	.18		
4. 母親期待記述数	-.19	.92**	.55**	
5. 母親期待割合得点	.36**	.08	-.81**	-.27**

*p<.05 **p<.01

Table 9. 中学生の父子関係得点と父親期待に関する尺度得点の相関

	1.	2.	3.	4.
1. 父子関係得点				
2. 父親期待肯定得点	.16			
3. 父親期待否定得点	-.12	.01		
4. 父親期待記述数	.08	.87**	.50**	
5. 父親期待割合得点	.23*	.22*	-.72**	-.22*

*p<.05 **p<.01

Table 10. 中学生の母子関係得点と母親期待に関する尺度得点の相関

	1.	2.	3.	4.
1. 母子関係得点				
2. 母親期待肯定得点	.20*			
3. 母親期待否定得点	.03	.00		
4. 母親期待記述数	.19*	.93**	.38**	
5. 母親期待割合得点	.12	.31**	-.82**	-.06

*p<.05 **p<.01

親子関係がよいと小・中学生は親の期待にこたえようと思うのか？

方が父親の期待にこたえようと思わないという評価が少なかったことが示された。母子関係得点と母親期待否定得点の間に5%水準で有意な負の相関が、母子関係得点と母親期待割合得点の間に1%水準で有意な正の相関がみられた。このことから母子関係がよい方が母親の期待にこたえようと思わないという評価が少なく、記述した期待にこたえようと思わないという評価が高いことが示された。

(親子関係得点と期待に関する尺度得点の相関—中学生)

父子関係得点と父親期待割合得点の間に5%水準で有意な正の相関がみられた。このことから父子関係がよい方が記述した父親の期待にこたえようと思わないという評価が高いことが示された。母子関係得点と母親期待肯定得点の間に5%水準で有意な正の相関が、母子関係得点と母親期待記述数の間に5%水準で有意な正の相関がみられた。このことから母子関係がよい方が母親の期待にこたえようと思わないという評価が多く、記述した母親期待の内容も多いことが示された。

(期待に関する各尺度得点の相関)

小学生と中学生の、父親期待と母親期待に関連する各尺度得点間の相関に共通する特徴が見られた。期待肯定得点と期待記述数の間に1%水準で有意な強い正の相関がみられた。また、期待否定得点の一人あたりの平均記述数が非常に少ない。このことは、小学生、中学生の意識している親からの期待の内容が多岐にわたることは、期待にこたえようと思える内容が多くなることにつながることを示すものである。

また、期待否定得点と期待割合得点の間に1%水準で有意な強い負の相関がみられた。それに対して期待肯定得点と期待割合得点の間には小学生では有意な相関がみられなかった。そして中学生では1%、もしくは5%水準の弱い正の相関がみられた。これは小学生、中学生がこたえようと思える期待の内容ではなく、こたえようと思わない期待の内容を意識することが、親の期待全般にこたえようとする傾向に影響することを示すものである。

4. 考察

本研究では子どもが認知している親子関係によって、小学生、中学生の日常生活の中で意識している親からの期待に対してこたえようと思えるかどうかを検討された。

小学生では、父子関係がよい方が父親の期待にこたえようと思わないという評価が少なかったという結果と、母子関係がよい方が母親の期待にこたえようと思わないという評価が少なく、記述した期待にこたえようと思える割合が高いという結果が示された。これらは親子関係がよい方が子どもは親の期待にこたえようと思えることを示唆するものである。ただしここで示された相関は

弱いものであった。したがって、親子関係が親の期待にこたえようと思えるかどうかには与える影響は弱いものであるとも考えられる。

中学生については、父子関係がよい方が記述した父親の期待にこたえようと思える割合が高いという結果と、母子関係がよい方が母親の期待にこたえようと思えるという評価が多く、記述した母親期待の内容も多いという結果が示された。これらは親子関係がよい方が親の期待にこたえようと思えること、母親との関係がよい方が母親の期待を多く認知していることを示唆するものである。ただしここで示された相関は弱いものであった。したがって、親子関係が親の期待にこたえようと思えるかどうか、また母子関係が母親の期待を多く認知するかどうかには与える影響は弱いものであるとも考えられる。

これらの結果は、小学生、中学生に共通して父親、母親との関係がよい場合には、子どもは親の期待にこたえようと思っていることを示唆している。小学生や中学生の親が子どもに、日常生活で意識している親の期待にこたえようと思えるようになってほしいと思っている場合、子どもが感じる親子関係はよくないよりはよい方が望ましいと考えられる。

これらの結果は Steinberg et al. (1992) の親子関係がよい場合に子どもによる親の教育目標の受けいれが促進されることを示唆する結果を支持するものであり、Mize & Pettit (1997) の母子関係がよくない場合に子どもによる親の教育目標の受けいれが促進されることを示唆している結果を支持しないものである。しかし、親子関係を示す得点と、親の期待にこたえようと思えるかどうかに関する諸得点の間の相関はあまり強くはなかった。これらの結果からのみでは親子関係が親の期待に対する態度に大きな影響を与えているとは言い難い。

また、小学生と中学生で結果に以下の違いがみられた。小学生では親との関係がよくない場合にこたえようと思えない期待の記述数が多くなった。しかし、中学生では親との関係がよい場合にこたえようと思える期待の記述数が部分的に多くなった。つまり小学生は親子関係によって「こたえない」期待の内容が増減したのに対し、中学生は親子関係によって「こたえる」期待の内容が増減した。言い換えると、小学生は親子関係をもとにして親の期待に「こたえないかどうか」を判断するのに対し、中学生は親子関係をもとにして親の期待に「こたえるかどうか」を判断している。これは小学生と中学生では日常生活で意識している親の期待の受け止め方が異なる可能性を示すものである。小学生は基本的には親の期待に「こたえる」ものであると考えているが、中学生は基本的に親の期待には「こたえない」ものであると

考えているため、親子関係によって小学生はこたえない期待の記述数が増え、中学生はこたえる期待の記述数が増えたと考えられる。つまり小学生には親の期待と自らの目標の間に明確な区別がなされていないが、中学生には親の期待と自らの目標の間に明確な区別がなされている可能性を今回の結果は示唆している。

また、溝上(1997)は「自己に対する評価は、高い、低いと一直線上でその方向性が論じられるほど単純なものではない。」(p.69)と述べている。期待肯定得点と期待否定得点の間に有意な負の相関が見られなかった本研究の結果からも同様に親の期待にこたえるかどうかについても、「こたえる」-「こたえない」の一直線上で方向性を論じることは難しいといえるのではないだろうか。

以上のように、小学生、中学生のどちらにおいても親子関係がよい方が日常生活の中で意識している親の期待にこたえようと思うという傾向が示された。しかしその関係は弱いものであった。つまり、親子関係が親の期待にこたえようと思うかどうかに与える影響は弱いものであると考えられる。この原因の1つとして、親の期待にこたえるかどうかについては、親子関係のみが要因ではないことが考えられる。つまり、親子関係以外の要因が親の期待にこたえるかどうかには大きな影響を与えている可能性がある。今後、子どもが実際にはどのような理由にもとづいて親の期待に対する態度を決定するのかについて探索的に検討し、親の期待にこたえようと思うかど

うかに影響を与える親子関係以外の要因を探る必要性があるだろう。

引用文献

- 柏木恵子 1990 環境としての親の期待 発達 ミネルヴァ書房 41, 9-17.
- 宮島 喬 1994 文化的再生産の社会学 藤原書店
- Mize, J., & Pettit, G.S. 1997 Mothers' social coaching, mother-child relationship style, and children's peer competence: Is the medium the message? *Child Development*, 68, 312-332.
- 溝上慎一 1997 自己評価の規定要因と SELF-ESTEEM との関係 - 個性記述的観点を考慮する方法としての外在的視点・内在的視点の関係- 教育心理学研究, 45, 62-70.
- Steinberg, L., Lamborn, S.D., Dornbusch, S.M., & Darling, N. 1992 Impact of parenting practice on adolescent achievement: Authoritative parenting, school involvement, and encouragement to succeed. *Child development*, 63, 1266-1281.

(1999年9月16日 受理)

親子関係がよいと小・中学生は親の期待にこたえようと思うのか？

ABSTRACT

If a child consider his/her parents-child relationship close, will the child respond to the expectations of his/her parents?

Takashi TOHYAMA

This paper reports a study that examined if a child consider his/her parents-child relationship close, the child will respond to the expectations of his/her parents. Elementary school students (n = 94) and junior high school students (n = 118) responded to two questionnaires about the parents-child relationships and intentions to respond to the expectations of parents. The result was as follows. If child feel that the relation between his/her parents and him/her is close, he/she will respond to the expectations of his/her parents. But this tendency is a weak one. This result suggests the existence of other causes of intentions of children to respond to the expectations.

Key words : expectation of the parents, parents-child relationships, intention to respond to the expectation